



最新医療機器を使った人工関節の手術—吉野川市鴨島町の麻植協同病院

麻植協同病院 人工関節センター

吉野川市鴨島町の麻植協同病院に、四国で初めて人工関節の治療を専門に行う人工関節センターが開設され、一年半が過ぎた。手術件数は順調に増えていて、病院関係者は「センター設置で潜在的な患者の掘り起こしに貢献できている」とみている。

手術件数順調に増加

開設1年半 患者掘り起こしに貢献

センターは二〇〇六年五月末に開設した。手術件数は、開設前の療室や病室(十五床)〇五年度百十五件から、〇六年度は百三十六件に増加。〇七年度は十一月末まで百六十三件と前年度を越えていて、予約も約百件入っている。

人工関節の手術は、傷んだ関節部分を金属や特殊樹脂、セラミックスなどの人工関節に取り換える。

重度の変形関節症やリウマチなどの患者に効果があり、高齢化が進む中で重要性が増している医療だが、人工関節の技術が知らずに

あきらめている人も多いという。

病院では、患者へのサポート体制の強化と潜在的な患者に人工関節技術を提供しようとセンターを設立した。

病院内に独立した診療室や病室(十五床)を用意した上で、約八千万円をかけて正確な位置に人工関節を埋め込むための最新の医療機器「ナビゲーションシステム」などを導入した。

三上浩センター長は「手術なのでリスクはあるが、人工関節にすることで動けるようになれば行動範囲が広がり、人生も豊かになるはずだ。口コミから相談に来てくれる患者も増えており、手応えを感じている」と話している。